

# 「学芸カフェテリア」の概要

## 1.大学の概要

東京学芸大学は、昭和24年に既存の4つの師範学校を母体として「専門の学芸を究め教員養成を主たる目的とする」新制大学として創立されて以来、日本における教員養成の中心大学として、広く教育界に有為の人材を輩出してきた。単価の教員養成系大学でありながらも、豊富な大学教員スタッフと13の附属学校・園を擁し、高度な専門性に裏付けされてきたきめ細かな教育を行っているところに最大の特色がある。昭和41年には大学院修士課程(教育学研究科)、平成8年には大学院博士課程(連合学校教育学研究科)を併設し、名実ともに日本の基幹的な教育養成系大学としての地歩を築いている。教育学部は、4つの教員養成課程(初等教育教員養成課程・中東教育教員容易性課程・特別支援教育教員養成課程・養護教育教員養成課程)と5つの新課程(人間社会科学課程・国際理解教育課程・環境総合科学課程・情報教育課程・芸術スポーツ文化課程)からなる。新課程は、教育体制の上でも、カリキュラムの上でも教員養成課程と有機的に関連付られ、幅広い学問的バックグラウンドの中で、それぞれ専門性が追及できるように工夫されている。

## 2.本学の学生支援に対する理念と目標

本学は、我が国の教員養成の基幹大学として、「有為の教育者」として21世紀を切り拓く志をもつ学生を求めることをアドミッション・ポリシーに掲げて、これまで「高度な専門性と優れた実践力を兼ね備えた学校教員」を養成するだけでなく、「先端的な専門知識と深い教養」や「教育に関する深い造詣」をもって、生涯学習社会や産業社会で活躍する人材をも育成してきた。

社会にこうした優れた人材を常に送り出すために、本学では在學生に「期待される大学生活」を示し、学生たちが有意義な大学生活を送るための指針としている。

本学の学生支援は、すべての学生が「期待される大学生活」を送ることができることを理念とし、教育課程と一体化して学生が大学生活の各ステージで解決していくキャリア発達課題に対応した、総合的・段階的な学生支援をめざしている。

## 3.本プログラムの趣旨・目的

### (1)「見えない」援助資源の活用と支援メニューの最適化

本学は平成19年10月に「総合学生支援機構」を設置し、学生支援の全学的な実施体制を整備する。しかし傘下に入る組織と教職員が潜在的にもっている支援コンピタンス、すなわち「見えない援助資源」をいかに「見える化」して、統合することでどのような効果ある学生支援を実施していくかが今後の課題である。また、学生の多くは「定食メニュー」のように提供される支援を享受するのみで、自分のキャリア発達課題を認識して、大学からの支援を自身のキャリア形成に積極的に活用していこうとする意欲が弱い。

この新たな取組では、学内の隠れた援助資源を発掘し最大限に効率活用することで、多種多様な支援メニューを開発し、学生が自分のニーズに合わせてこれら支援メニューを選択でき、最適化された支援計画を立案できる支援システムの構築を目的としている。

### (2)本学にとっての意義

この取組によって本学の教育研究の施設・整備、多様な研究分野の教員や経験豊かな事務系教員の人的資源を、学生支援のために有効に活用することができ、教職員の学生支援に対する意識を向

上させることができる。

また、学生はキャリア発達の段階でさまざまな課題や困難を抱えるが、大学が個々のニーズにあった支援を提供できないほど多様化しており、また大学が個別に対応するにも予算に制約がある。新たな段階では学生は自分のニーズにあった支援メニューを選択し利用できることから、学生は満足できる支援をキャリア形成に意欲的に活用できるようになる。

#### 4.本プログラムの組織体制

平成 19 年度には、従来の学生相談支援センターのキャリア支援部門を学生キャリア支援センターとして独立させ、学内のすべての学生支援組織と指導教員を統括する総合学生支援機構を設置した。

この事業の独自性は、総合学生支援機構に全学ファシリテーターとファシリテーター補佐、キャリアプランナーを設置し、多様な支援メニューの開発を行うとともに、学生がこれら支援メニューを活用して、自身のキャリア形成に活用できる支援メニューを開発し、学芸カフェテリア・ウェブサイトで提供する。学生は、キャリアプランナーからのガイダンスを受け、自分の学修計画やキャリア発達課題に応じて、学芸カフェテリアから支援メニューを複数選択し、自分の最適な支援計画を立案できるようになる。

